

水害レポート 2014

Report of Water – Related Disaster in 2014



水害レポート 2014

Report of Water – Related Disaster in 2014

CONTENTS

2014 年の水害状況	2P
2014 年の主な水害・土砂災害	3～4P
国が管理する河川における出水の発生状況	5P
土砂災害の発生状況	6P
ダムにおける洪水調節の実施状況	7P
各地の水害	
東北地方	8～9P
中部地方	10～11P
近畿地方	12～13P
中国地方	14～16P
四国地方	17～20P
火山災害	
御嶽山	21P
治水事業の効果	22～23P
下水道事業の効果	24P
TEC-FORCE の活動状況	25P
水防団・建設企業の活動状況	26P
海外の水害	27P



雨の降り方が局地化、 集中化、激甚化

日本各地で時間雨量50ミリを超える豪雨が発生。



2014年の水害等の状況

台風8号、11号、12号、18号、19号の相次ぐ上陸や前線等の影響で、広島土砂災害など、各地で甚大な被害が発生。

また火山災害として、9月には戦後最悪の死者・行方不明者数となる御嶽山の噴火が発生。



2014年の主な水害・土砂災害

8月15日からの大雨



京都府福知山市内の溢水状況

台風8号及び梅雨前線



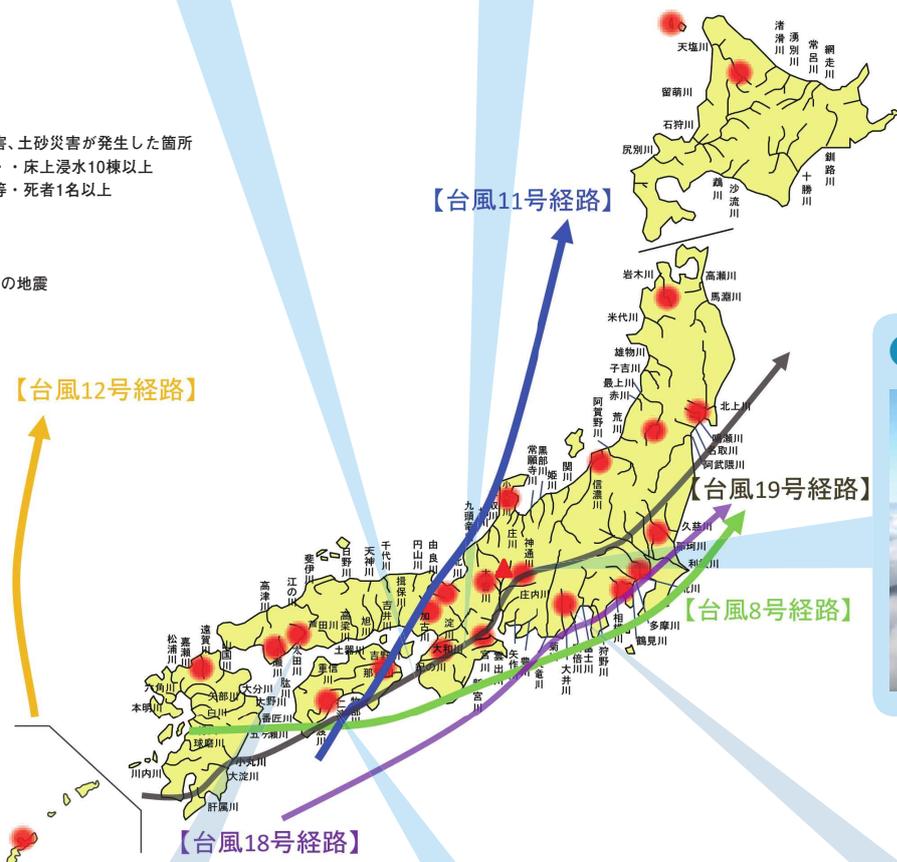
長野県南木曾町土砂災害の状況

凡例

以下の水害、土砂災害が発生した箇所
 水害・・・床上浸水10棟以上
 土砂災害等・死者1名以上

▲ 御嶽山

✕ 震度6以上の地震



御嶽山の噴火



広島市における 8月19日からの大雨



広島県広島市での土砂災害の状況

台風12号及び 台風11号



高知県日高村 仁淀川水系の氾濫状況

台風18号及び 台風19号



静岡県静岡市での浸水状況

2014年の主な水害・土砂災害

主な水害・土砂災害による一般被害状況

(消防庁調べの情報を編集)

災害要因	死者数 (人)	行方不明 者数 (人)	住家被害 (棟)					非住家被害 (棟)	
			全壊	半壊	一部損壊	床上浸水	床下浸水	公共施設	その他
台風8号 及び梅雨前線	3	0	7	7	108	330	1,037	14	51
台風12号、台風11号	6	0	14	162	857	1,648	5,163	9	642
8月15日からの大雨	8	0	35	129	3,034	2,117	3,406	1	45
8月19日からの大雨 (広島県における被害状況)	74	0	179	217	190	1,086	3,097	2	466
台風18号	6	1	2	4	251	671	1,869	2	25

※本資料の数値等は速報値を含むため、今後の調査で変わる可能性があります。

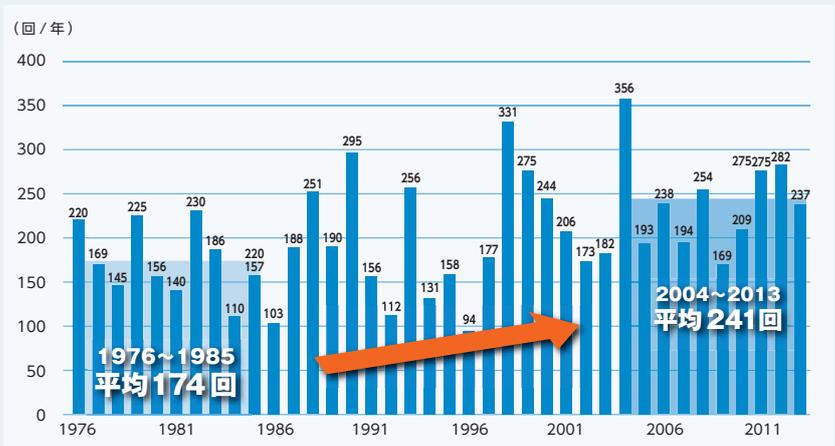
column 1

雨の降り方が局地化、集中化、激甚化

大雨の発生件数は、近年増加傾向にあり、時間雨量50mmを超える豪雨が各地で発生しています。8月には、広島市で観測史上1位となる3時間雨量217.5mmを記録。さらに、広島県三入観測所では時間雨量101mmを記録し、大規模な土砂災害が発生しました。

また、台風12号、11号により、高知県では、総雨量が1,000mmを超える豪雨が月に2回発生するなど、まさに、雨の降り方が、局地化、集中化、激甚化しています。

時間雨量50mmの大雨の発生件数が増加



1時間降水量50mm以下の年間発生回数
(アメダス1,000地点あたり) 気象庁資料より作成

国が管理する河川における出水の発生状況

2014年の国が管理する河川の洪水

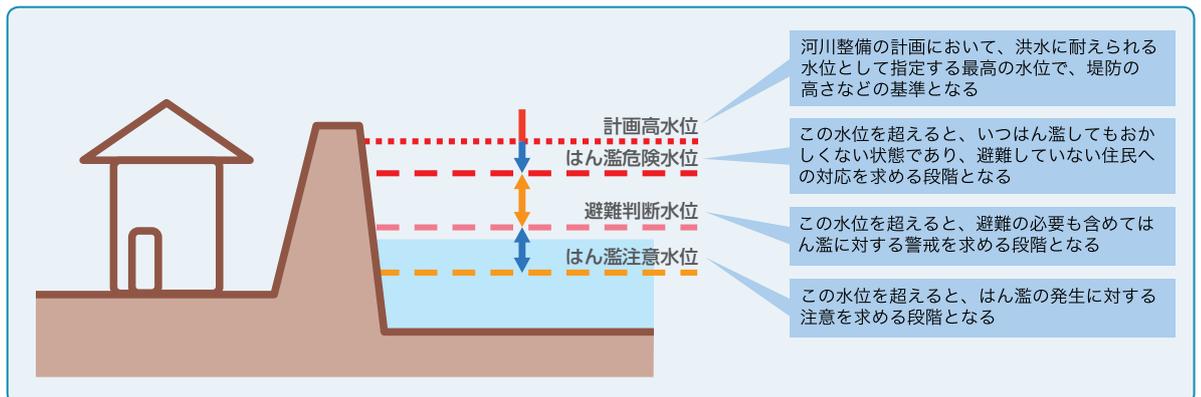
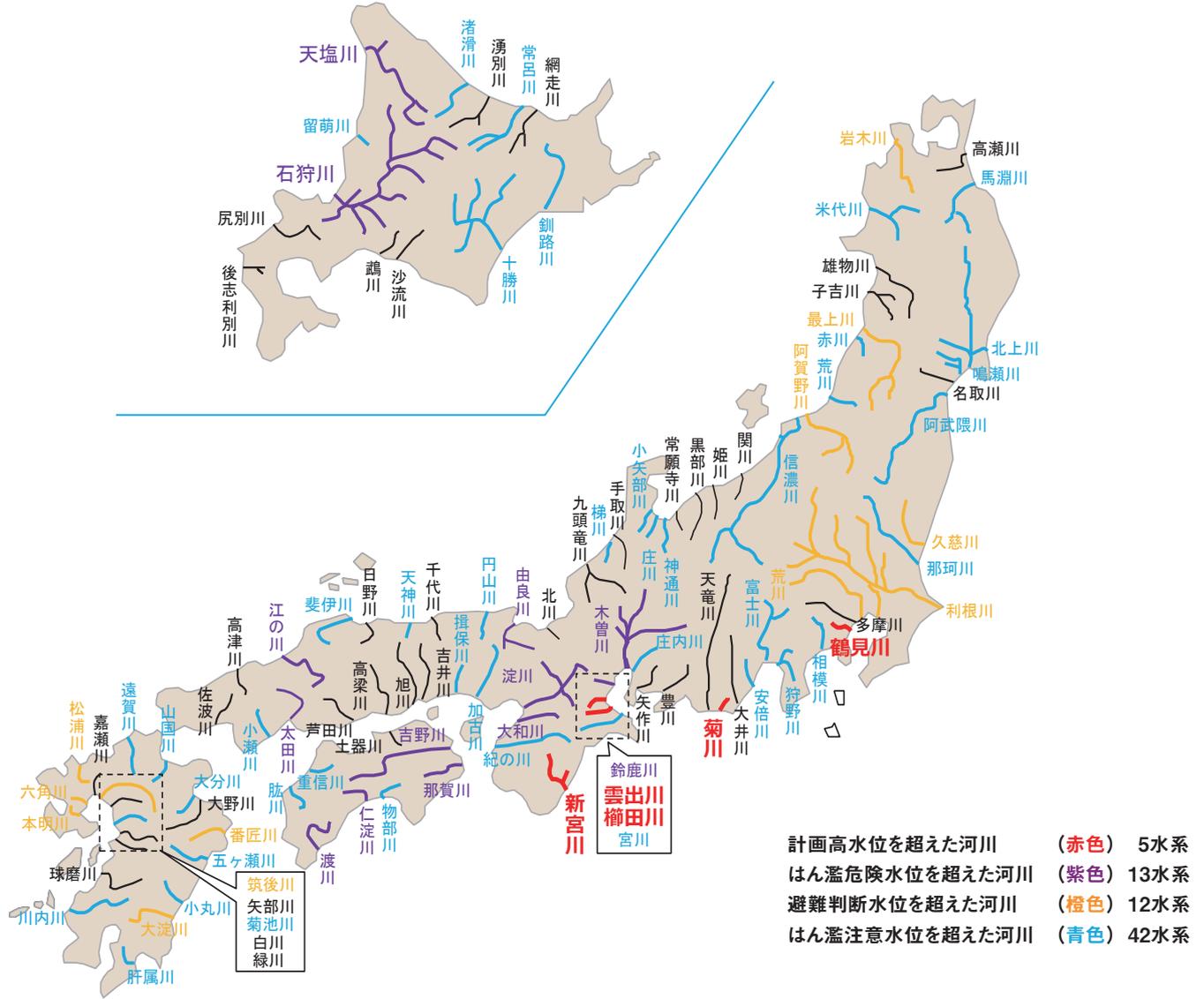
※最も高い水位のみで水系数を記載している。

例えば計画高水位を超えた河川は、はん濫危険水位を超えた河川の水基数には含めていない。

※平成25年1月1日～同年12月31日の洪水を対象に国土交通省にてとりまとめ。

※水系・河川数は洪水毎に集計しているため、同年に複数回の洪水があった水系・河川については複数回計上している。

但し、下図は平成25年にあった洪水のうち、最も高い水位を記録した洪水で作図している。



2015年、土砂災害の発生状況

土砂災害発生件数

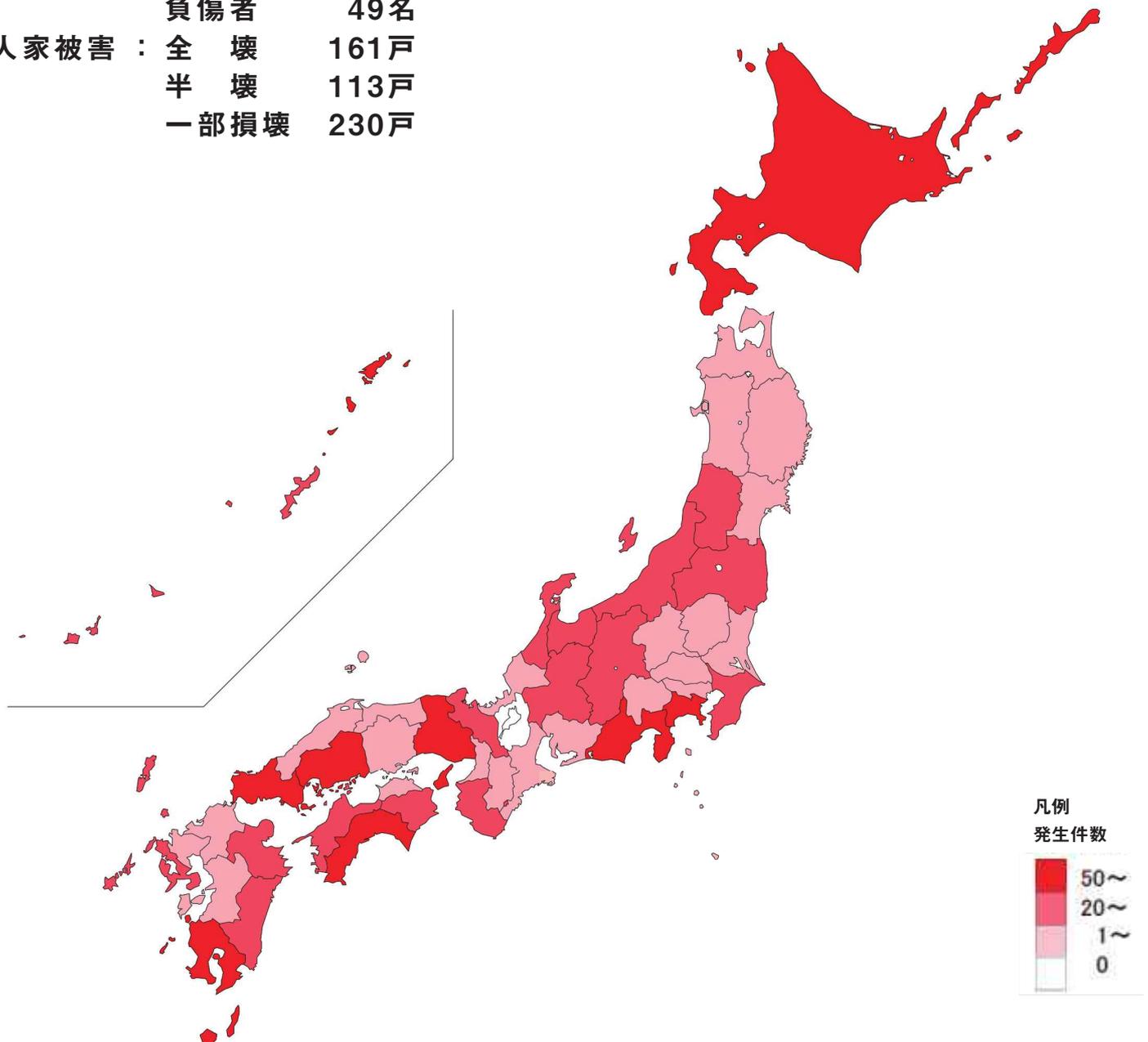
平成26年12月31日現在

1,184 件

土砂流等 : 338件
地すべり : 77件
がけ崩れ : 769件

【被害状況】

人的災害	死者	81名
	負傷者	49名
人家被害	全壊	161戸
	半壊	113戸
	一部損壊	230戸

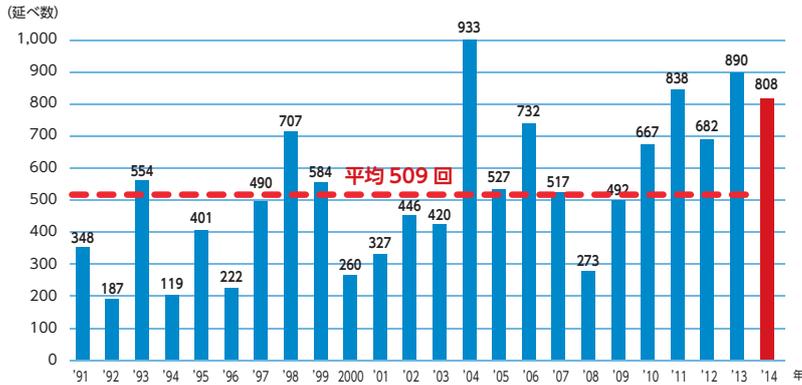


ダムにおける、洪水調節の状況

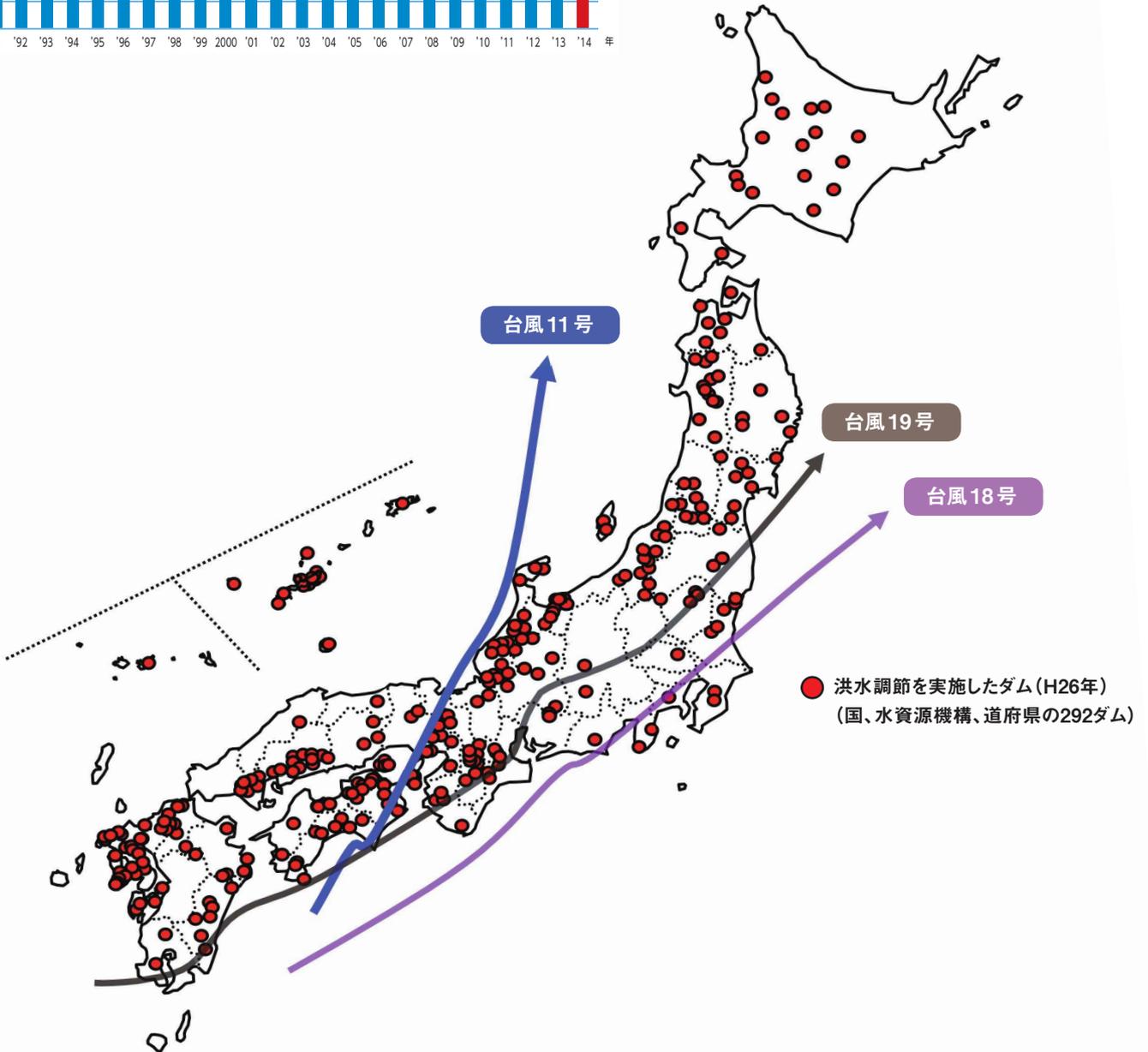
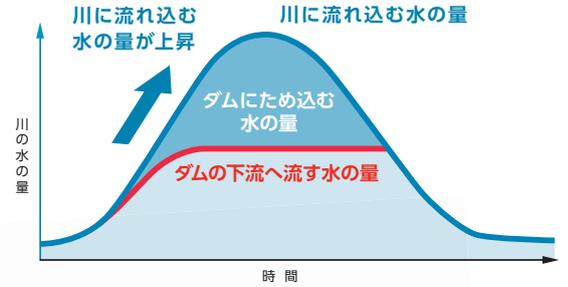
- 平成26年(1月1日～12月31日)は、国土交通省所管のダムにおいて、延べ808回の洪水調節を実施。
- 年間平均値509回の1.6倍に相当し、平成3年以降の23年間で4番目に多い回数だった。

過去の洪水貯留操作実施数

(国土交通省所管ダム)(平成26年末時点)



ダムによる貯留イメージ



各地の水害
東北地方

7月9日からの大雨(梅雨前線)

**記録的な大雨により、
山形県の各地で災害が発生**

7月9日から10日にかけて、山形県で最大24時間降水量が観測史上第1位を記録する大雨に。

これにより最上川水系の吉野川などが氾濫。甚大な被害が発生。



白竜湖溢水による周辺の浸水状況
山形県南陽市



最上川水系最上川の
氾濫による浸水状況
山形県大江町左沢(百目木地区)



最上川水系吉野川での橋梁の落橋
山形県南陽市金山地区

災害の概要

東北地方に停滞する梅雨前線に向かって、台風第8号から暖かく湿った空気が流れ込み、大気の状態が不安定に。このため、山形県内では7月9日から10日にかけて雷を伴う非常に激しい雨が降り、県南部を中心に大雨となった。降り始めからの最大24時間降水量は、白鷹観測所(白鷹町:国交省)で214ミリ、長井観測所(長井市:気象庁)で195.5ミリとなり、白鷹観測所では観測史上第2位、長井観測所では観測史上第1位を更新するなど、記録的な大雨となった。これにより、最上川の小出観測所(長井市)の水位は避難判断水位(レベル3)を超過し、観測史上第4位の水位を記録。各地で土砂災害や洪水、浸水、冠水などの災害が発生し、南陽市や長井市、山形市などの9,868世帯に避難勧告・指示が出された。

各地の水害

東北地方

7月9日からの大雨(梅雨前線)

昨年に引き続き、 最上川水系吉野川などが氾濫。 甚大な被害が発生

山形県内の一般被害

- ・負傷者1名
 - ・全壊1棟
 - ・半壊8棟
 - ・一部破損1棟
 - ・床上浸水192棟
 - ・床下浸水430棟
 - ・680世帯で断水(南陽市)
 - ・1,728戸で停電
(山形市、南陽市、鶴岡市、川西町)
 - ・23箇所でがけ崩れ・土砂流出等
 - ・県道・市町村道の33箇所が通行止め
 - ・JR(山形新幹線、奥羽本線、米坂線、羽越本線)で運休や遅れが発生
米坂線では21日間の区間運休が発生
 - ・山形鉄道(株)(フラワー長井線)は線路が一部損壊し9日間の区間運休が発生するなど交通機関にも大きな影響
- 【被害状況については、山形県調べ、平成26年10月8日時点】



最上川水系織機川(出水・土砂流出による溢水)
(南陽市漆山地区)



市街地浸水状況
(南陽市)



最上川水系織機川(鉄道橋の宙吊り状況)
(南陽市漆山地区)



最上川水系吉野川(家屋損壊)
(山形県南陽市金山地区)

7月6日～11日 / 台風8号及び梅雨前線 豪雨により、南木曾町で 土砂災害が発生

7月6日から11日にかけて、台風8号が接近、鹿児島県に上陸。台風周辺の湿った南風と梅雨前線の影響で、台風から離れた地域でも局地的に猛烈な雨に。長野県南木曾町では、時間雨量76ミリの豪雨により土石流が発生し、土砂災害となった。

南木曾町の 一般被害

- ・死者数1名
- ・全壊10棟
- ・一部損壊3棟

土石流による被害状況



災害の概要

台風8号は、大型で非常に強い勢力となって、8日に沖縄本島と宮古島の間を北上。その後、九州の西海上で進路を東寄りに変え、10日7時前、鹿児島県阿久根市付近に上陸。台風周辺の湿った南風と梅雨前線の影響で、台風から離れた地域でも局地的に猛烈な雨の降った所がある。

そのため、長野県南木曾町では9日、17時40分頃に土石流が発生。家屋全壊やJR中央本線の橋梁流出など被害が発生した。

各地の水害
中部地方

10月5日～6日 / 台風18号

記録的豪雨により、 巴川水系巴川沿いで浸水発生

10月6日の台風18号の上陸に伴い、静岡県では猛烈な降雨となり、
巴川水系巴川沿いで浸水被害が発生。



巴川水系巴川沿いの浸水状況
(静岡市清水区鳥坂地先)

巴川水系巴川沿いの浸水状況
(静岡市葵区瀬名川地先)



災害の概要

10月5日から6日にかけて、台風18号が接近。それに伴い、台風からの暖かく湿った空気が東海道沖にあった前線を刺激、台風接近前より西日本から東日本の広い範囲で長時間にわたる大雨となった。

台風18号は、6日8時頃静岡県浜松市付近に上陸し、台風本体の雨雲により静岡県内では猛烈な降雨に。静岡市葵区鍵穴(カギアナ)(気象庁)で観測史上1位となる最大1時間降水量87ミリ、最大24時間降水量402ミリを記録するなど、記録的な大雨となった。

これにより、巴川水系巴川の排水機能を超え、大規模な内水氾濫が発生。床上、床下浸水など甚大な被害をもたらした。

8月15日～17日 / 8月16日からの大雨

福知山市で浸水被害が発生

8月16日から17日にかけて、前線の影響により、京都府福知山市では2日間雨量が観測史上1位を更新。

福知山市街地の広範囲で浸水被害が発生。

福知山市内の浸水状況



河川の護岸決壊



災害の概要

平成26年8月15日から17日にかけて、本州付近に前線が停滞。この前線に向かって南から暖かく湿った空気が流れ込み、その影響により京都府各地で局地的に激しい雨が降った。

特に福知山市内では、16日から17日にかけて、福知山観測所（气象台）で24時間雨量が観測史上最大の303.5ミリの記録的大雨となった。

この豪雨により、由良川の支川である弘法川（コウボウガワ）や法川（ホウカワ）などの溢水や内水氾濫が発生。

福知山市で、死者1名、負傷者1名、4,425戸の床上・床下浸水、さらに道路冠水など、大規模な被害が生まれた。

（被害状況については、福知山市調べ）

8月15日～17日 / 8月16日からの大雨 丹波市でも大規模な浸水、 また土砂災害が発生



由良川水系徳尾川周辺の
出水状況
(兵庫県丹波市市島町徳尾)



由良川水系前山川
国道175号
八日市橋落橋
(兵庫県丹波市市島町上竹田)



由良川水系前山川周辺の
出水状況
(兵庫県丹波市市島町上鴨坂)



土石流による土砂災害状況
(兵庫県丹波市市島町上竹田)



由良川水系市の貝川(JR橋梁付近)での浸水跡
(兵庫県丹波市市島町中竹田)



由良川水系美和川 出水状況
(兵庫県丹波市市島町与戸)

災害の概要

兵庫県丹波地域でも、丹波市市島町の北岡本雨量観測所(国交省)で最大24時間雨量(時間雨量)414ミリ(91ミリ)を観測した。

この豪雨により、丹波市市島町の由良川水系前山川、市の貝川(カイカワ)、美和川(ミワガワ)などでは大規模な浸水が発生。山腹崩壊などの土砂災害も市内で104箇所確認され、死者1名、負傷者4名、住宅全壊18戸、大規模半壊9戸、半壊41戸などの被害が起こった。また、県管理道路14箇所ですべて全面通行止め、4箇所で片側交互通行となった。

(被害状況については、丹波市調べ)

8月19日からの大雨

記録的な大雨で、 浸水、土砂災害が発生

8月19日からの大雨で、広島市では観測史上1位となる3時間雨量217.5ミリを記録。浸水のほか、166件の土石流・がけ崩れが同時多発的に発生。水害・土砂災害による市町村単位の人的被害としては、昭和57年の長崎災害以来の規模となった。



太田川水系根谷川沿いの浸水状況
(広島市安佐北区可部東)



太田川水系根谷川
4K200右岸の溢水状況
(広島県広島市安佐北区可部町)



太田川水系根谷川
3K800右岸の土砂流出状況
(広島市安佐北区可部東)

家屋の浸水状況
(広島市安佐北区可部町)



災害の概要

日本海に停滞する前線に向かい、南から暖かく湿った空気が流れ込み、広島県では大気の状態が不安定に。これにより、20日夜半から明け方にかけて、広島市安佐南区と安佐北区を中心に猛烈な雨となった。

安佐南区と安佐北区可部を襲ったこの豪雨は、暖かく湿った空気が流入し続け、同じ場所で積乱雲が繰り返し発生する『バックビルディング現象』が原因の1つと考えられる。

広島市安佐北区三入観測所(気象庁)において最大1時間降水量が101.0ミリ、最大3時間降水量が217.5ミリ、最大24時間降水量が257.0ミリとなり、いずれも観測史上第1位の値を更新した。

この豪雨により根谷川の4K200右岸(上市井堰上流、可部市街地側)では溢水被害、下流側でも内水被害が発生。安佐南区と安佐北区では土砂崩れと土石流が発生し、多数の住宅がのみ込まれる被害が発生した。

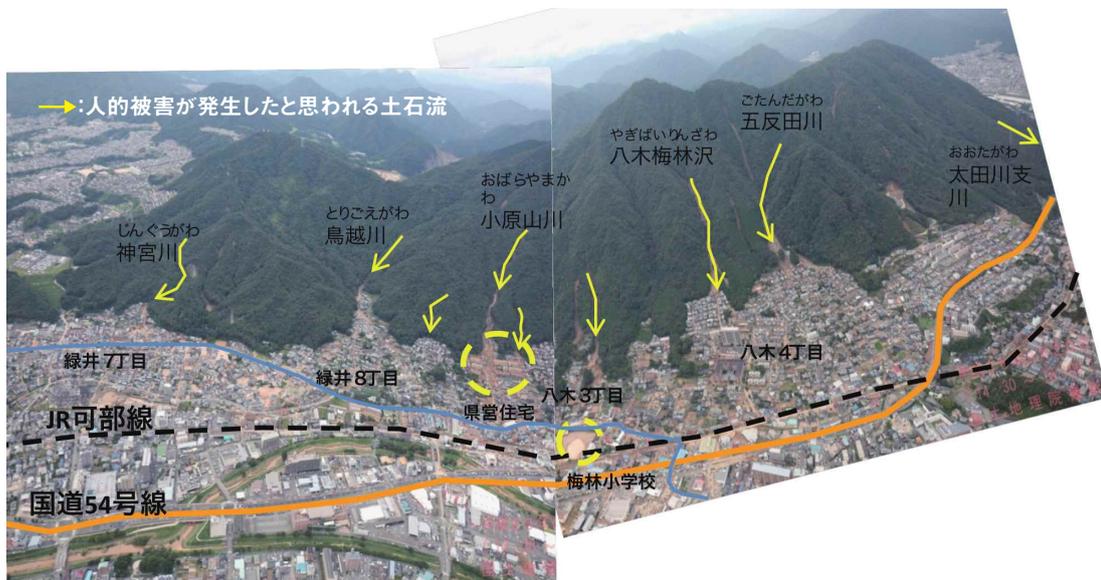
この豪雨災害による人的被害は死者74名、重軽傷者69名。家屋の被害は、全壊179棟、半壊217棟、一部損壊190棟、床上浸水1,086棟、床下浸水3,097棟に及んだ。(被害状況については、消防庁調べ、1月9日11時時点)

流出した土砂により国道54号が通行止め、JR可部線が12日間運休するなど多大な被害が生じた。

各地の水害
中国地方

土砂崩れ、土石流が多数発生

一方、安佐南区と安佐北区では土砂崩れと土石流が発生して多数の住宅がのみ込まれる被害が発生した。この豪雨災害による人的被害は死者74名、重軽傷者69名。家屋の被害は、全壊179棟、半壊217棟、一部損壊190棟、床上浸水1086棟、床下浸水3097棟に及んだ。(被害状況については、消防庁調べ、1月9日11時時点) 流出した土砂により国道54号が通行止め、JR可部線が12日間運休するなど多大な被害が生じた。



緑井・八木地区
国土地理院(平成26年8月20日)



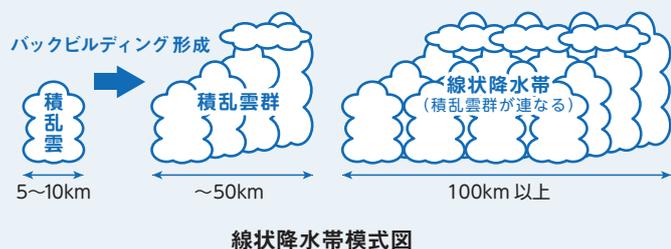
土石流による被災状況
(広島市安佐南区緑井)



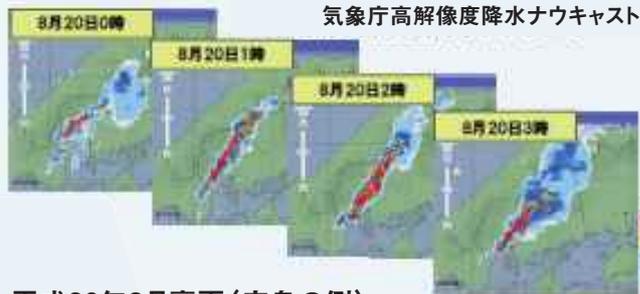
column 2

バックビルディング現象

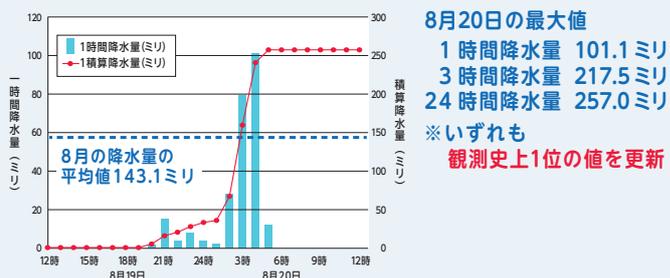
風上側に次々と積乱雲が発生し、ビルが林立するように並ぶ現象。風下側に、1時間に100ミリ前後の猛烈な雨を降らせ続ける。広島県の例では、月平均降水量をはるかに超える雨が、短時間に集中した



気象庁高解像度降水ナウキャスト

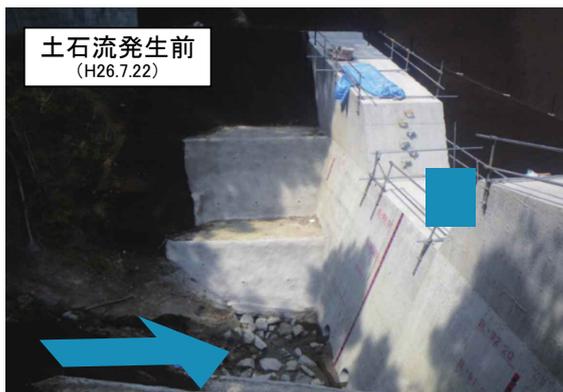
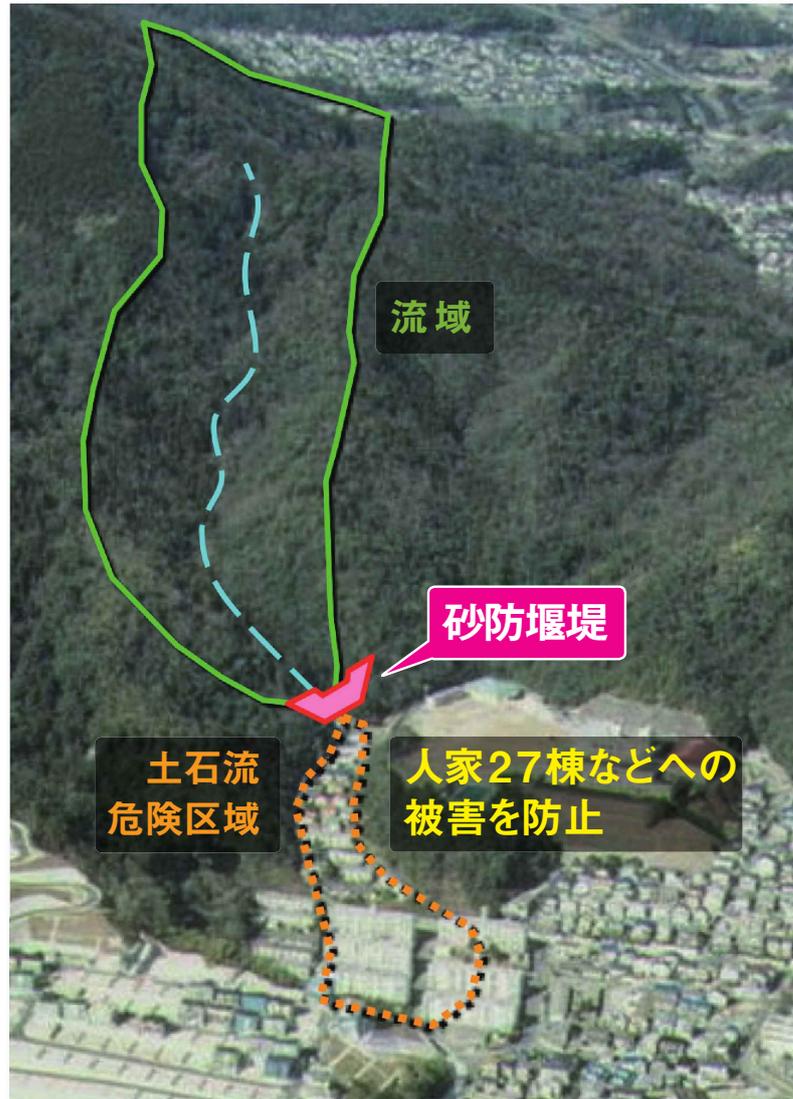


平成26年8月豪雨(広島の場合)
アメダス:広島市安佐北区三入



砂防堰堤の効果も見られた 土石流を砂防堰堤が止め、 下流の被害を防止

八木地区の近く、大町地区では砂防ダムが土石流を捕捉し、
人家27棟などへの被害を防止。



各地の水害

四国地方

台風12号及び台風11号

立て続けの台風襲来で、四国各地で浸水、地滑りなどが発生

8月2日から3日にかけての台風12号と、10日に上陸した11号により四国の山間部などで大雨に。高知県では、総雨量1,000ミリを超える豪雨が月に2回も発生。四国各地に被害をもたらした。

〈台風12号による災害〉



仁淀川水系宇治川周辺の内水被害状況
(高知県吾川郡いの町枝川)



仁淀川水系日下川周辺の
内水被害状況
(高知県高岡郡日高村本郷)



仁淀川水系日下川周辺の
内水被害状況
(高知県高岡郡日高村沖名)

災害の概要

東シナ海をゆっくりと北上した台風12号の影響により、四国地方に湿った空気が流入。発達した雨雲が断続的に発生したため、強い雨が長期間にわたって降り続いた。特に高知県の山間部では、鳥形山(トリガタヤマ)雨量観測所(気象庁)で、8月1日から4日までの総雨量が1,000ミリを超え、記録的な大雨となった。

この台風により四国地方では、高速道路5路線5箇所、直轄国道4路線16箇所をはじめ、多数の箇所が通行止めになり、高知自動車道、国道33号では60時間を超える長時間の通行止め(国交省調べ)となった。

また、四国山地を越えるJR土讃線では土砂崩れや土砂流入が発生し、8月2日から8月12日に復旧するまで、約11日間にわたって運休(JR四国平成26年8月12日発表)。利用者への影響が生じた。四国地方の一般被害は、徳島県、高知県において、死者1名、負傷者2名、全壊2棟、半壊1棟、一部破損25棟、床上浸水852棟、床下浸水1,297棟となった。

(被害状況については、消防庁調べ平成26年11月5日時点)



台風12号及び台風11号

山間部で地すべりや、山腹崩壊が発生

高知県の大豊町怒田(オオトヨチョウヌタ)地区、高知市鏡的湊(コウチシカガミマトブチ)地区の地すべり箇所では、人家への影響が危惧されたことから、住民に対し避難指示が発令された。

〈台風12号による災害〉



那賀川水系桑野川 出水状況
(徳島県阿南市長生町おわた)



穴喰川水系穴喰川 出水状況
(徳島県海部郡海陽町穴喰浦)



穴喰川水系穴喰川 内水被害状況
(徳島県海部郡海陽町久保松本)



海部川水系海部川 内水被害状況
(徳島県海部郡海陽町富田南澤)



地すべり発生状況
(高知県長岡郡大豊町怒田)



地すべり発生状況
(高知県高知市鏡的湊)

各地の水害

四国地方

台風12号及び台風11号

記録的な豪雨により

各地で浸水や内水被害が発生

〈台風11号による災害〉



那賀川水系那賀川周辺の浸水状況
(徳島県阿南市加茂町) ※徳島県提供



那賀川水系那賀川周辺での
水防活動状況
(徳島県阿南市那賀川町大京原)



那賀川水系那賀川 出水状況
(最高水位記録直後)
(徳島県阿南市古庄地点)

災害の概要

10日の早朝に台風11号は高知県に上陸し、四国を縦断。長時間にわたり湿った空気が流れ込み、西日本の広範囲が雨となり、四国地方では太平洋側の山間部を中心に大雨となった。特に徳島県南部では、魚梁瀬(ヤナセ)雨量観測所(気象庁)で、8月8日から8月10日までの総雨量が1,000ミリを超え、記録的な豪雨に。徳島県的那賀川では、基準地点の水位が昭和25年9月に発生したジェーン台風による洪水を上回る戦後最大規模を記録し、阿南市、那賀町の沿川では、4,837世帯(11,696人)を対象に避難勧告や避難指示が発令された。

この影響により、四国地方では高速道路9路線9箇所、直轄国道6路線17箇所をはじめ、多数の箇所が通行止め(国交省調べ)となった。

四国地方の一般被害は、負傷者13名、全壊8棟、半壊152棟、一部破損285棟、床上浸水754棟、床下浸水1,908棟となった。(被害状況については、消防庁調べ平成26年11月5日時点)

〈台風11号による災害〉

各地の水害
四国地方



鏡川水系鏡川の出水状況
(高知県高知市唐人町)



鏡川水系鏡川の出水状況
(高知県高知市唐人町)



渡川水系吉見川周辺の内水被害状況
(高知県高岡郡四万十町窪川)



渡川水系吉見川周辺の内水被害状況
(高知県高岡郡四万十町窪川)



高知海岸堤防の被災状況(戸原工区)
(高知県高知市春野町戸原)



高知海岸堤防の被災状況(南国工区)
(高知県南国市十市)

火山災害
御嶽山

9月27日11時52分頃に、2007(平成19年)3月下旬以来となる噴火が発生。

行楽シーズン中における休日・昼間の時間帯という最悪の条件下での噴火により、火山災害として、戦後最悪の死者・行方不明者数となる災害となった。



被害状況

(平成26年10月23日現在)

死者	57名
行方不明	6名
負傷者	69名

治水事業の効果

高知県 波介川河口導流路 による効果



合流点を、水位の低い仁淀川河口部に付替え



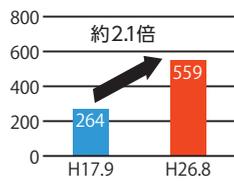
- 洪水時、波介川は仁淀川本川の高い水位の影響により水はげが悪くなり、土佐市中心部は度重なる水害に悩まされてきた。
- 仁淀川水系波介川では、仁淀川との合流点を水位の低い河口に付け替え、波介川の洪水を流れやすくする波介川河口導流事業を実施。平成24年6月より運用を開始。
- 導流路完成前の平成17年9月の台風14号と、平成26年8月の台風12号の比較では、効果を実証。2日間の雨量が約2.1倍であったが、導流路の効果により浸水面積212ヘクタール、浸水家屋13戸と被害が大幅に軽減した。

波介川河口導流路の効果 (H17、H26比較)



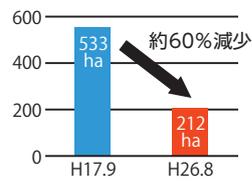
●雨量は約2.1倍

家俊雨量 (mm/2日)

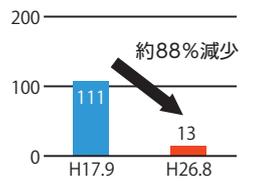


●導流路の効果により、被害は激減

浸水面積 (ha)



浸水家屋 (戸)



治水事業の効果

徳山ダム、横山ダムの 洪水調節による効果



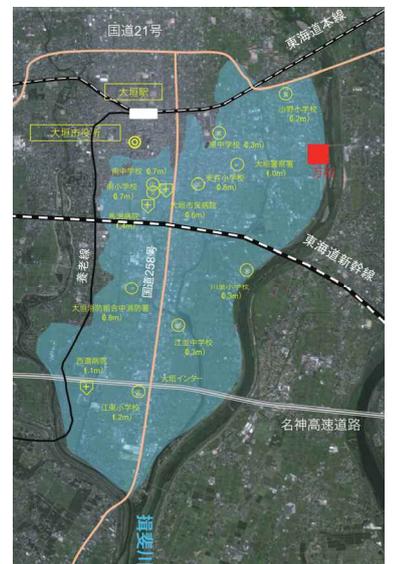
平成26年8月豪雨出水状況
(揖斐川大橋付近)

- 平成26年8月の豪雨(台風11号)により、木曾川水系揖斐川では大規模な出水が発生したが、徳山ダムと横山ダムの洪水調節により水位を2メートル低下させて、浸水被害を回避。
- ダムによる洪水調節の結果、約6,100億円の被害を未然に防止した。

もしも堤防が決壊していた場合、大垣市街地が浸水し、約6,100億円の被害が発生したと推定



万石地点(岐阜県大垣市万石)



下水道事業の効果

京都府

いろは呑龍トンネルによる効果

- 京都市、向日市、長岡京市を排水区域とする雨水貯留施設（いろは呑龍トンネル）の事業を平成7年から行い、貯留量107,000m³の北幹線管渠を整備。
- 平成26年8月の豪雨（台風11号）において、満管まで貯留し、過去の同規模程度の豪雨に比べ、浸水被害を大幅に軽減した。

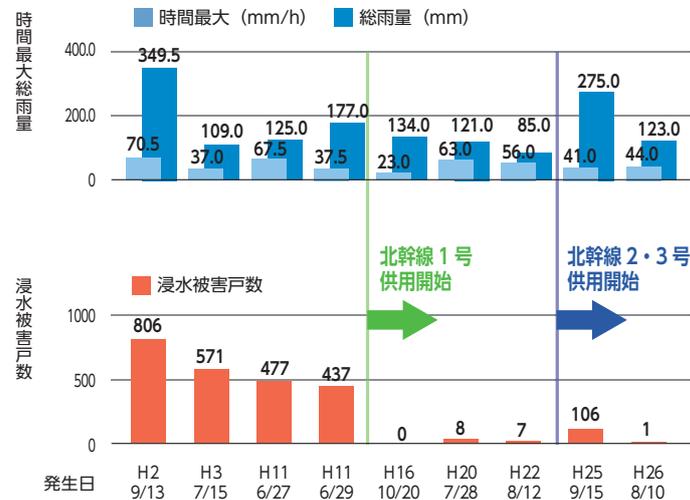


北幹線3号管渠～いろは呑龍トンネル



施設共用後は、過去の同規模の豪雨に対し、浸水被害を大幅に軽減

● 整備効果（近年の主な浸水被害戸数）



TEC-FORCE (緊急災害対策派遣隊) の活動

平成 26 年度の活動概要

- 平成26年の災害において派遣したTEC-FORCE(緊急災害対策派遣隊)は、のべ4,940人・日(12月末時点)。全国の地方整備局などから32都道府県、148市町村に隊員を派遣し、発災直後から被災状況の把握や被害拡大防止などの技術的な支援を実施した。
- 特に広島県広島市では、8月19日からの大雨の影響により約170件以上の土砂災害が発生。土砂災害危険箇所の評価・搜索活動の支援、早期復旧のための支援、二次災害防止のための支援を実施した。

主な活動内容



被災地の排水のため、
八木用水の土砂撤去の支援
(広島市土砂災害 9月1日)



搜索活動中における
二次災害防止のための助言
(広島市土砂災害 8月24日)



土砂災害発生現場の点検
(広島市土砂災害 8月24日)



大型土のう設置
(広島市土砂災害 9月6日)

濁河温泉登山口で照明車
により下山者や、消防・警察の
救助活動を支援
(御嶽山の噴火 9月27日)



TEC-FORCE とは

○大規模自然災害に対応し、被災地方公共団体などが行う被災状況の迅速な把握、被害の発生や拡大の防止、災害応急対策および早期復旧に対する技術的な支援を、円滑かつ迅速に実施するために国土交通省に設置された専門家集団。

○全国の各地方整備局などの職員(平成26年5月 19日現在で合計6,609名が任命)で構成され、大臣(災害対策本部長)の指揮命令のもと状況に応じて派遣される。

TEC-FORCE (Technical Emergency Control FORCE)



太田国土交通大臣からTEC-FORCEへの訓示
(中国地方整備局災害対策室) (広島市土砂災害派遣 8月21日)

平成26年派遣数 1,796人(12月末時点) のべ4,940人・日

	派遣隊員数 (人)	派遣隊員の活動員数 (のべ人・日)
H26.1/26 ~ 29 北海道福島町道道土砂崩れ	16 (0)	16 (0)
H26.1/26 ~ 北海道・東北・関東甲信越等雪害	175 (79)	427 (280)
H26.6 前線等 高知県・宮崎県	10 (0)	19 (0)
台風 8 号及び梅雨前線 長野県南木曾町など	137 (0)	187 (0)
台風第 12 号及び 第 11 号の大雨等	313 (2)	356 (2)
H26.8/16 から続く大雨 北海道礼文町、京都府福知山、 岐阜県高山市など	158 (9)	378 (27)
H26.8 広島県広島市の土砂災害	424 (188)	2,523 (1,199)
御嶽山の噴火	179 (0)	274 (0)
台風第 18 号	44 (0)	49 (0)
台風第 19 号	62 (0)	88 (0)
長野県北部を 震源とする地震	242 (0)	589 (0)
H26.12/5 ~ 徳島県雪害	36 (0)	34 (0)
合計	1,796	4,940

水防団 建設企業の 活動

水防団の活動

- 災害時、越水や漏水などによる堤防の決壊を防ぐため、各地の水防団などは水防活動を実施する。
- 平成26年10月には、台風18号の降雨で水位が上昇した利根川水系小貝川において、水防団70人による堤防からの漏水対策として「月の輪工法」を実施。堤防の決壊を防いだ。

建設企業の活動

- 国土交通省は、建設企業の協力を得て災害初期から応急活動を実施する。
- 広島県の土砂災害の際には、中国地方整備局との災害協定に基づく要請を受けた地元33社の建設企業が昼夜を問わず懸命の復旧活動を実施した。

広島県建設工業会 会員企業による災害対応出動状況
(平成26年8月20日未明～平成27年1月31日) ※印は延べ数

出動会員企業(会員企業数:84社) **33社**

出動作業人員 **23,000人**※

建設機械等 **約5,000台**※

ダンプ・トラック等 **約8,800台**※

特殊車両
(ポンプ車、散水車等) **約1,000台**※



水が引いた後の「月の輪工法」の状況
(10月8日)



まち側の堤防法尻から漏水した箇所
で水防活動を実施
(10月6日)



道路啓開の状況(8月30日)



被災地の排水のため、八木用水の土砂撤去
(8月31日)

バルカン半島における洪水被害

被害の概要

- 5月13日からの継続的な降雨により、セルビアやボスニア・ヘルツェゴビナで洪水が発生。
- 60人以上の死者が報告されており(5月26日EU発表)、この地域ではここ100年以上で最悪の被害。
- セルビアでは1,000箇所、ボスニアでは2,100箇所、土砂災害が発生。
- 電力供給にも影響が出て、セルビアでは5月18日時点で約15万世帯、ボスニアで約10万世帯が停電。
- 多くの都市で上水の供給も停止、飲料水、食料、医薬品などに不足が生じた。

バルカン半島における洪水影響地域(5月16日時点)



ボスニア・プルチコの浸水の状況

- ※1 死者・行方不明者数は、ボスニア・ヘルツェゴビナの2014年6月2日現在の報道発表資料、セルビアの同年7月9日現在の報道発表資料及びクロアチアの2014年5月20日現在の報道発表による。
- ※2 避難者数は、2014年5月21日現在の各国報道発表による。



セルビア・テスラ発電所の浸水の状況



ボスニア・Topčić Poljeの土砂災害の状況